

科目名	BIM演習 4							年度	2026
英語科目名	BIM Practice 4							学期	後期
学科・学年	建築学科 3年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	根本 毅	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		
<b>【科目の目的】</b> 環境シミュレーションの基礎を身につけ、実践的なデジタルファブ리케이션技術の習得に繋げる。									
<b>【科目の概要】</b> BIMと連携した他のソフトウェアを学びます									
<b>【到達目標】</b> シミュレーションを行う基礎を身につけ、デジタルファブ리케이션科目へと繋げていく									
<b>【授業の注意点】</b> 評価はルーブリックにもとづいて行い、指導教員等により評価を行う。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	BIMデータを高度に活用し、複雑なシミュレーションを実行できる。	BIMデータを活用し、基本的なシミュレーションを実行できる。	簡単なシミュレーションを実行し、結果を理解できる。	基本的なデータ処理が可能である。	基礎知識の理解に留まる。				
到達目標 B	シミュレーション結果を効果的に解釈し、改善提案ができる。	シミュレーション結果を分析し、簡単な改善提案ができる。	結果の分析が基本的にできる。	結果を理解するも、分析が難しい。	結果の理解が不十分である。				
到達目標 C	環境シミュレーションの知識を他の課題に応用できる。	シミュレーション知識を関連分野に応用できる。	シミュレーションを応用する際の指針を理解する。	応用に困難を感じる。	応用力が不足している。				
到達目標 D	BIMシステム内で自立的に作業が可能である。	作業を効率的に進めることができる。	指導があれば作業を進めることができる。	作業に対して多くの支援が必要。	基礎的な操作が難しい。				
到達目標 E	デジタルファブ리케이션と統合したシミュレーションに貢献できる。	統合プロセスを理解し、基本的な貢献ができる。	ファブ리케이션連携の基本を理解できる。	理解が浅いが、取り組む姿勢がある。	理解に難しさを感じる。				
<b>【教科書】</b> 配布資料による									
<b>【参考資料】</b>									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 成果品等で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		BIM演習 4			年度	2026	
英語表記		BIM Practice 4			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル		評価方法	自己評価
1	特別講師による演習	先端技術を学ぶ	1 講師による	社会に出てから必要となるBIM技術などを学ぶ		2	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等